研究ノート

もう1つの動物園

――御誕生寺で気儘に暮らすねこたち――

諸　井　克　英
同志社女子大学・生活科学部・人間生活学科・特任教授

Another Zoological Garden:

Cats Living Free and Easy Lives in the Gotanjouji Temple

MOROI Katsuhide
Department of Human Life Studies, Faculty of Human Life and Science,
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Special appointment professor

Ⅰ．はじめに

諸井・古性（2018）は，動物園がもつ存在意義に触れた上で，社会心理学的視点から動物園の魅力高揚に対する言及を試みた。さらに，現場観察を交えながら，動物園が果たす地域での役割を考察した。この中で，「園内リサイクル」の問題に象徴されるように，そもそも動物園が人間と自然との関係に関する微妙な均衡の上に成立していることが浮き彫りにされた（諸井・古性，2018）。これは，「捨て猫」や「殺生処分」などの動物愛護の問題にも通底している。

本稿では，人間と自然の関係を考察できる事例として越前市に実在するねこ寺を取り上げる。動物園は，動物を囲い込むことによって人間と自然との触れ合いを実現する空間である（諸井・古性，2018）。対照的に，このねこ寺は，猫を囲い込むことなく，一定空間内（= お寺の境内）に自由に生息させることにより人間との触れ合いを成立させている。しかしながら，その寺に生息する猫（大半が人に遺棄された背景をもつ），寺側の意図，および訪れる人々という三者の関係も，実は人間と自然との関係に関する微妙な均衡を孕んでいることを読み取ることができる。本稿の目的は，この微妙な均衡を軸にねこ寺の意味を明らかにすることである。

Ⅱ．ねこ寺としての御誕生寺

福井県・越前市にある御誕生寺は，猫がいる寺としてメディアでも有名になった（表1）。さらに，猫との「出逢い」を唱ったドライブマップも作成されている（図1）。まずは，この寺に猫が招来された経緯から説明しよう。

（1）越前市の概略

福井県のほぼ中央に位置する越前市は，面積230.70km^2，人口82,347人の地方都市である（越前市，2020）。2000年代初頭に基礎自治体の財政強化を主目的として政府が推進した「平成の大合併」の流れの中で，2005年に武生市と今立郡今立町が合併して越前市となった。なお，この時代に取り組まれた「平成の大合併」の様態

表1　御誕生寺に関する新聞記事一覧

日本経済新聞	2014年7月1日	捨て猫に拾う仏あり―猫寺 のんびり52匹―
読売新聞	2014年5月23日	癒やしの“寺猫”撮って―越前市・御誕生寺でコンテスト―
読売新聞	2015年9月26日	猫ゴロリ 飼い主さん待つ
読売新聞	2018年6月13日	田園地帯 人気の「猫寺」
読売新聞	2019年5月9日	保護猫が伝える仏の教え
朝日新聞	2014年1月23日	猫寺・町並みの「色気」―仁愛大生が6本―
朝日新聞	2016年5月10日	猫いっぱい 境内で共存

図1　越前市ドライブマップに紹介されている御誕生寺

について，久井（2018）は，「市町村数減少率」と「中心市町合併寄与率」の観点から計量的に分析し，問題点を浮き彫りにしている。

武生の歴史は古く，大和時代には敦賀から新潟あたりまでが「越の国」と呼ばれていた。武生地域は，507年に即位した継体大王で知られるように，当時の経済・文化の中心地であった。現在では，市内・安養寺町の人工巣塔を用いたコウノトリの孵化も有名である。また，越前和紙や越前打刃物などの伝統産業に加え，電機メーカー・オリオン本社，オーディオテクニカ工場，村田製作所工場などがある。

交通の点から見ると，JR 北陸本線（武生駅）と福井鉄道・福武線（越前武生駅－田原町駅）の路線があり，2023年には北陸新幹線の福井駅と敦賀駅の間の単独駅として南越駅が設置予定である。また，北陸自動車道も武生インターチェンジで利用できる。

（2）御誕生寺の誕生

御誕生寺は，2008年に越前市床田町の山間に建立された曹洞宗の寺である。曹洞宗とは，禅宗系仏教に分類される。北陸自動車・武生インターチェンジから10分程度であるが，JR 武生駅からは徒歩で1時間以上要する（図1参照）。

御誕生寺の本山は總持寺（横浜市鶴見区）である。總持寺は瑩山紹瑾が1321年に「諸嶽山總持寺」として開創し，1322年に後醍醐天皇より「論旨」を賜った。1898年に起きた大火事に伴い，1911年に鶴見に移転することとなった（竹内，2015参照）。瑩山紹瑾の生誕地が越前市帆山であるため帆山に小堂が建立されたが荒廃した。このこともあって，總持寺・貫首を務めた板橋興宗氏（1927年生～2020年没）が2002年に新たに小堂を建立した。2008年には本堂が建立され本尊が安置された（写真1-a，写真1-b，写真1-c）。この寺は，曹洞宗の僧侶を育成する専門僧堂として認可を受けている。

（3）ねこ寺の誕生

本堂建立に伴い境内に現れた捨て猫の出現が御誕生寺をねこ寺へと変貌させた。板橋興宗氏が元々猫好きであり，「ニャーニャーと泣いていた4匹の捨て猫が不憫で餌をやったのが始まり」（御誕生寺，2016a）である。そもそも彼は，總持寺・貫首であった時にも「一時期スーちゃんという猫をかわいがっていたこと」（板橋，2013）があるのだ。その原初的動機も極めて単純であった（「だって，私が引き取らなければ，保健所に連れて行かれてしまうでしょう」；板橋，2013）。

もちろん，猫や捨て猫に対する感情のみであれば一般的な人々にも存在するが，猫と仏教と

写真1-a　御誕生寺・入り口
〈2020年11月6日；著者撮影〉

写真1-b　御誕生寺・本堂
〈2020年11月6日；著者撮影〉

写真1-c　御誕生寺・全景
〈2020年11月6日；著者撮影〉

の関係も猫を大切にする理由として強調された。仏教保護に傾注した第40代天皇（在位期間：673年～686年）の天武天皇の時代に「経典とともに猫がやってきた」と伝えられている。「ネズミや小動物を捕るのが特異な猫は，貴重な仏教の経典を守る役目を担っていた」のである（御誕生寺，2016a）。民俗学者の中村（1987）によれば，わが国における猫の起源は，700年前後に中国から「船載した仏教経典をネズミからまもるためにネコを船に積んだ」ことにある。そのようにして日本に来た猫が野良猫と飼い猫の境界が曖昧な「村のネコ」となったのである。

このようにして，御誕生寺の境内には多くの猫が暮らすようになり，2019年12月には2頭の猫が寄り添った大仏も建立され（写真2-a; 週刊文春編集部，2020），広い境内を猫たちが闊歩するねこ寺として有名になった（写真2-b）。ただし，お寺に属する猫であることを表示するために「御誕生寺のご朱印のマークが入った首輪」（御誕生寺，2016b）を装着している。新たに無断で棄てられた猫には，一定期間わざと首輪をさせない。来訪した人たちが首輪のない猫の存在に気づくことによって，「いまだに猫を捨てる人がいる」（御誕生寺，2016b）という現実を認識できるからだ。なお，2020年7月に板橋興宗氏が93歳で天寿を全うされ，現在は猪苗代昭順氏が住職に就かれている。

（4）ねこ寺での暮らし

ねこ寺での猫たちの暮らしは無秩序ではない。例えば，給餌は「毎日2回，朝7時半と午後3時半」（御誕生寺，2016a）である（写真3-a，写真3-b）。さらに，後述する感染症予防や所謂多頭化防止にも配慮される（「御誕生寺の猫たちはワクチン接種や避妊，去勢」；御誕生寺，2016a）。これには，「去勢や不妊手術をしないとどんどん不幸な猫が増えてしまう」（御誕生寺，2016a）という理由が呈示される。さらに，地域のボランティアと連携しながら「猫の譲渡会や里親募集」（御誕生寺，2016a）も行われる。

特筆すべきことに，猫エイズなどの重篤な伝

写真2-a　猫が寄り添う大仏様
〈2020年11月6日；著者撮影〉

写真3-a　定期的な給餌時間（朝7時半・午後3時半）
〈2020年11月6日；著者撮影〉

写真2-b　広い境内を自由気儘に
〈2020年11月6日；著者撮影〉

写真3-b　猫社会にも存在する孤食志向性
〈2020年11月6日；著者撮影〉

染病に罹患した猫も見捨てることなく隔離棟で飼育され（写真4-a，写真4-b）。当然，他の猫との接触がないように配慮されている（写真4-c）。

ところで，御誕生寺での猫たちの日常的世話は，修行僧全員で行われている。早朝の境内の糞掃除，餌遣り，猫小屋の清掃，さらには猫の健康管理が一日の「作務」に含まれる。このねこ寺特有の「作務」は次のように意義づけられる。「気ままに過ごす猫を相手にしているだけでも」（御誕生寺，2016b）禅の境地に触れることができるとともに，実家がお寺であるために将来は住職に就いたときも様々な猫への対応が寺を訪れる人々への配慮に役立つことになる。

写真4-a　エイズなどの伝染病を患っている猫のための隔離棟
〈2020年11月6日；著者撮影〉

写真4-b　伝染病を患ったために遺棄されたブランド系猫
〈2020年11月6日；著者撮影〉

写真4-c　隔離棟内の猫とは接触禁止
〈2020年11月6日；著者撮影〉

Ⅲ．人間中心主義と自然主義との均衡としてのねこ寺

Descartes（1637，1596年生～1650年没）は，「精神」の専有性を人間に付与することにより，人間の「豊かさ」をもたらす近代科学を推進した。この専有性の仮定は，キリスト教的世界観に由来することは言うまでもなかろう（旧約聖書　創世記，2010）。しかし，この人間中心主義的仮定は，比較認知科学が様々な形で明らかにした諸動物がもつ認知・思考機能の豊かさ(=多様性）によってその愚かさを突きつけられた（藤田，2007）。ここでは，人間と猫との関係が人間中心主義と自然主義との間の微妙な均衡の上に成立していることを示すことにしよう。

(1）人間の日常空間への猫の侵入

猫の起源は10,000年以上も前の中東に遡ることができる。鼠などの害虫駆除の役割が猫に付与されたことにより人間との親和的な関係が発達したのである（Bradshaw, 2013）。つまり，人間と猫との関係は，「古代から人間と特殊な関係を結んできた」（飯沢，2019）ことによって特徴づけられる。猫は「他のペットや家畜とはやや異質な存在」(飯沢, 2019) なのだ。詩人・文月（2016）は，恋愛関係の文脈でこのような猫と人間の関係性を巧みに描いた（「わたしたちの猫」;「だれもが尻尾を丸め，人のふりして暮らしている」，「『わたしに飽きないでね』そう告げているようなまなざし」)。

NHK ドキュメンタリー『岩合光昭の世界ネコ歩き』(BS プレミアム；2012年～）で有名な岩合光昭氏は，もともと自然写真家であったが，1980年代半ばから「被写体をネコに特化」（飯沢，2019）していった。その動機は，猫が

「囲いやヒモなどで縛られていることなく自由に暮らし」（岩合，2018a）ており，「人間と共存しながら，半ば独特のテリトリーを築き上げ」，「人間を中心とした社会に開けられた風穴」としての存在となっているからである（飯沢，2019）。

(2)人間中心主義からの脱却の偽装としての「動物愛護法」

ところで，わが国の「動物愛護法」の基は1973年に議員立法によって成立した「動物の保護及び管理に関する法律」である。この策定過程を探索した春藤（2020）によれば，この法律は，「動物の適正な取り扱いや虐待防止」や「動物を愛護する気風」の育みという目的ともに，「動物から人間の財産を守る」という管理的視点も重要な軸となっている。とくに後者の具体的措置として犬や猫の引き取り義務規定が設けられ殺処分が合法化されたことは，そもそもの目的と矛盾する状況を招来することになった。

第2次世界大戦後のわが国の動物愛護運動を領導した，社団法人日本動物愛護協会は1948年に設立されたが，戦後直後の状況を反映して歪な形で出発した。設立時には，「協会の主要な役職のほとんどを駐留英米人有力者の夫人たちが占めていた」（春藤，2018）のである。春藤（2018）は，占領下の特殊な力学の下で「動物愛護精神の普及事業を第一」とする立場と「動物の治療等の事業を推進する」立場が混在する折衷的過程を明らかにした。

この「動物愛護法」は，1973年以降何度か改正された。当初は，a)「動物の虐待防止や適正な飼養」に加えてb）危害や迷惑を防止するための動物の適切な管理が軸であった。しかし，2012年の改正では，a) 動物の遺棄の防止やb）動物の健康および安全の保持が強調され，人間と動物の共生という視点が導入されたのである（東京弁護士会公害・環境特別委員会（編），2020）。

ここで注目すべきは，「動物愛護法」に基づく犬・猫の引き取り義務規定の設置が設けられ，引き取り手のない個体を殺処分することが合法化されたことである。しかし，動物愛護の先に動物福祉を見据えた活動の高まりなどもあって（杉本，2020など），殺処分に対する態度が人間と動物の共生という方向への変化に伴い，この殺処分は減少していった（図2，資料1）。と

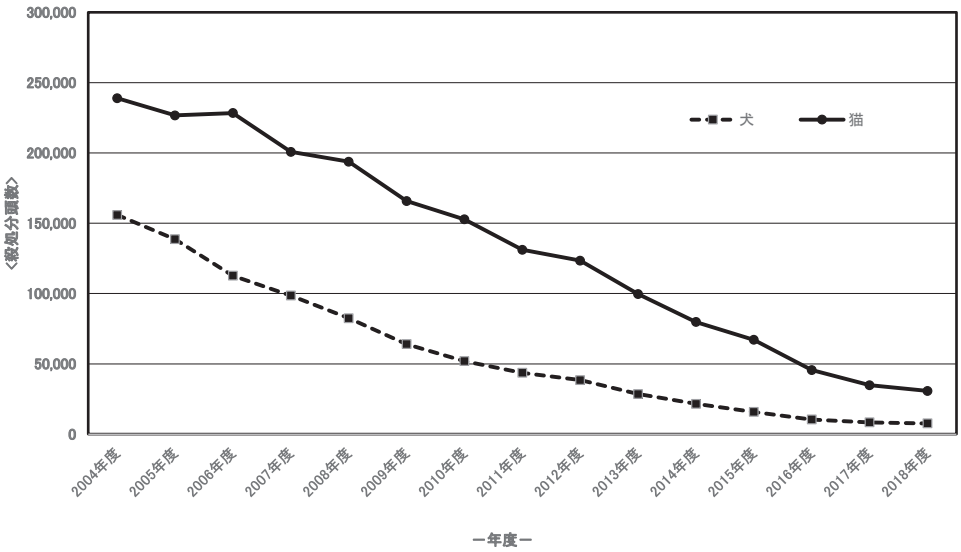

図2　全国の犬・猫殺処分頭数の推移（環境省自然環境局，2020より）

りわけ，2012年の「動物愛護法」改正では「殺処分がなくなることを目指して」という34条4項が加えられたことは大きな後押しとなった。興味深いことに，この殺処分の状況は犬と猫で異なっている。犬では殺処分頭数が10万頭を下回ったのが2007年度であり，2018年度では7,687頭となった。しかし，猫の場合には2013年度に10万頭をようやく下回り，2018年度も30,757頭が合法的に処分されている。

2012年春に青森県立三本木高校の動物科学科・愛玩動物研究室担当の教師の発案で青森県動物愛護センターに女子高校生たちが訪れ，「犬や猫たちが，殺処分される管理施設」の存在を間近に見た。彼女たちは，殺処分された犬や猫たちの骨が「ゴミ」つまり「事業系廃棄物」として捨てられることに驚愕し，この経験を契機とした「命の花プロジェクト」を起ち上げた。このプロジェクトでは，センターから焼却された骨をもらい受け，細かく砕き土壌に混ぜ鉢植えを作り，一般の人々に配布するのだ（綾野，2014）。殺処分された犬や猫たちの「もっと長く生きたかった」という想いを花に命を与えることで叶えてあげることに加えて，殺処分という事実を一般の人々に考えてもらうことができるからである。このプロジェクトは今も継続している（青森県立三本木農業高等学校，2021）。

ところで，興味深いことに，「動物愛護法」は，先述したように，猫がリードでつながれることなく巧妙に人間との共生関係を築いたにもかかわらず，飼い主のいない個体を認めないという人間側の方向変換（人間社会との共生が許容されるのは飼い猫であり，野良猫ではない）をもたらしたことに由来する。さらに，近年，飼い主責任を明確化するために，マイクロチップ装着が導入されている。秋山・山崎（2019）は，大学の公開講座（「ヒトがイヌと歩くということ」）を利用して大学生（動物看護系）と一般参加者に動物愛護に関する質問紙を実施した。マイクロチップ装着については大学生では半数の支持しかないのに（56.1%），多くの一般参加者が支持していた（82.1%）。しかし，マイクロチップ情報に医療情報を含めることは一般的に期待されていた（それぞれ64.9%，79.5%）。

ところで，犬や猫が抱える病原体の差異も重要となる。たとえば，猪又・青木・木村・昆・紫竹（2019）は，新潟県内の動物愛護管理センターに収容されている犬や猫（それぞれ136頭，176頭）を対象として寄生虫類と下痢原性大腸菌の保有を検査した。下痢原性大腸菌の検出率は犬では19.1%，猫では15.3%であった。しかし，寄生虫類の検出率は，犬では3.7%にすぎなかったが，猫では42.0%に達した。

さらに，伊藤・兼島・佐伯・金井・近澤・堀・星・樋口（2010）は，20都道府県にある動物病院に来院した家庭で飼育されている犬（1～6ヵ月齢150頭，1歳齢以上120頭）と猫（それぞれ112頭，104頭）を対象として消化管内寄生虫を検査した。1～6ヵ月齢で犬でシアルジア（33.3%，1歳齢2.5%），猫で猫回虫（15.2%，1歳齢1.9%）の保有率が高かった。これらは人獣共通感染性（人とそれ以外の脊椎動物の両方に寄生する病原体により生じる感染症）であることから，伊藤らは犬や猫の入手先の問題を指摘している。猪又ら（2019）や伊藤ら（2010）の知見は，逆説的であるが，猫が人間との共生関係を構築する上での妨げとなった。

また，猫エイズの問題も大きな妨害因となった。石田（2001）によると，絶滅が危惧されていた「ツシマヤマネコ」の人工繁殖の試みが環境庁（当時）と長崎県によって1990年代に着手された。ところが捕獲された一見健康な「ツシマヤマネコ」の血液検査の結果，猫免疫不全ウィルスエイズ（FIV; feline immunodeficiency virus）に感染していることが発覚した。環境庁は，対馬の野良猫と飼い猫を対象に（それぞれ40頭，10頭）調査を行い，22%がFIVで陽性であったことを報告した（環境省，2021）。これをきっかけにしてわが国でも猫エイズが一般的に認知されるようになった。この猫エイズの特徴は，無症状期が長いが，最終的に外見的醜形を呈して死に至ることである（表2）。したがって，検査をしなければ飼い主によって気が

表2　猫エイズの進展段階*

段階	期間	症状
急性期	1ヵ月～1年	発熱，リンパ節の腫れ。飼い主が見過ごすことが多い。
無症状キャリア期	2～4年，またそれ以上	無症状。検査をすると常に陽性となるが，外見上は健康な猫と区別つかない。
PGL**期	1～2ヵ月	全身のリンパ節の腫れ。
エイズ関連症候群	1年，またはそれ以上	様々な慢性の病気，口内炎が多発。
エイズ	数ヵ月	激しい痩せ，重い感染症，または悪性腫瘍。

＊石田（200）に基づき作成。
＊＊持続性全身性リンパ節症（Persistent Generalized Lymphadenopathy）

つかれにくい反面，罹患したことが分かると飼い主が遺棄してしまうことに繋がりやすい。

このウィルスは，人や犬などの体内で増殖できない。猫同士では交尾や喧嘩などの接触行為により感染するので，飼い猫の場合には幼い頃から検査し，できるだけ「室内飼育」することが重要となる（石田，2001）。しかしながら，完全な「室内飼育」は「縄張りの見回り」などの猫の習性と矛盾することになる。要は，検査などを受けていない野良猫との接触による感染を如何に予防するかが肝要となるからである。このような医学的知見も，野良猫の存在に対する否定的態度に繋がり，猫を「室内空間」へと閉じ込める促進要因となった。

Ⅳ．暫定的結論
―もう1つの動物園の可能性―

岩合光昭氏が監督を務めた映画『ねことじいちゃん』（岩合，2019，DVD; 2018，写真集）は，2019年に公開された。この映画は，「愛知県の三河湾に浮かぶ島に暮らすおじいちゃんと猫の話」（岩合，2019）である。妻（田中裕子）に先立たれた「春山大吉」（立川志の輔）が生前の妻が拾ってきた「タマ」との暮らしが島の人々との繋がりや「タマ」と他の猫との交流を中心に描かれる。文月（2019）が指摘するように，「猫が人に見えてくるのではなく，人が猫に見えてくるような映画」である。圧巻は，「大吉」の体調の悪化により，「大吉」が「島を離れ，息子家族のいる東京で暮らすべきか（「タマ」との「2人暮らし」の終演を意味する）を葛藤し始めたとき，タマは一旦姿を消してしまう」（文月，2019）局面である。この場面は，この映画を見た観客にとって最も感動的となる。それは，「タマ」が「自分のいるべき場所を見定めるかのように」描かれる。結局，「大吉」は「タマ」との「2人暮らし」の継続を決断し，映画は終わる。この時点で，我々は岩合氏の術中に陥るのである。「僕が撮りたかったのは，島の空気感なんですね。人がそこで生まれ育って，果てていく。猫も，島で生まれ育って果てていく」（岩合，2019）。

岩合（2018a）が指摘するように，大きな幹線道路やスーパーマーケットなど似たりよったりの風景と化した地方都市は利便性と引き換えに地方の独自色を喪失した。その利便性は人間にとっては好都合であるが，猫には生きにくさをもたらした。この映画に従えば，人間社会を自由に生き抜いていた猫は，人間の便利性や先述した猫の抱える病原体の抑制という理由で，人間にとって都合の良い仕方で管理されていくのである。ちなみに，ペットフード協会の調査に基づくと（社団法人ペットフード協会），犬の飼育頭数は8,489千頭，猫では9,644千頭である。飼育場所に注目すると，「室内のみ」の飼育は，犬では27.4%，猫では79.6%であった。

この映画だけでなく，先述した岩合氏が構成

した猫の世界に惹かれる背景には人間社会を自由に闊歩する猫への憧憬がある。ねこ寺として板橋興宗氏が創り出した御誕生寺は，このような憧憬を充足する代替空間，つまり明確な境界のないもう1つの動物園を提供しているのだ。

ところで，京都にある「嵐山モンキーパークいわたやま」は，1954年に京都大学の研究のために野生の猿たちの餌付けが開始され，1957年から一般公開された。そこには山間に群生する猿たちが餌を求めて「パーク」に集まるために，その猿たちを見るために訪れた人々と多くの猿たちが混在する空間と化す（写真5）。この点だけに注目すると本稿で対象としたねこ寺に類似している。しかしながら，猿たちの居場所はあくまでも近隣の山間部であり，ねこ寺の猫たちが囲いがなくても寺を居場所としていることとは決定的に異なる。

諸井・古性（2018）では，動物を囲い込むことによって人間と自然との触れ合いを実現する動物園という空間に関する様々な考察を企て，人間と自然との関係に関する微妙な均衡の上に動物園が成立していることを明らかにした。この微妙な均衡を克服しているかのように見えるねこ寺も，実はこの微妙な均衡を依然として孕んでいるのである。現場観察をさらに拡大しながら，このもう1つの動物園の可能性を探るべきであろう。

写真5　京都・嵐山モンキーパークで寛ぐお猿さん
〈2016年6月8日；著者撮影〉

Ⅴ．引用文献

秋山順子・山崎 薫 2019 動物愛護に関する法律についての周知度及び教育に関するアンケート調査―平成30年度調査報告― 動物研究（ヤマザキ動物看護大学），**1**，33-43.

綾野まさる 2016『いのちの花―ペットの殺処分0を願う女子高生たち―』ハート出版

Bradshaw, J. 2013 *Cat sense: The feline enigma revealed.* 羽田詩津子（訳）『猫的感覚―動物行動学が教えるネコの心理―』2014 早川書房

Descartes, R. 1637 *Discours de méthode* 落合太郎（訳）『方法序説』岩波文庫 1953

藤田和生 2007『動物たちのゆたかな心』京都大学学術出版会

文月悠光 2016『わたしたちの猫』ナナロク社

文月悠光 2019 人が「猫」に見えてくるとき ユリイカ，**51(4)**，83-86.

御誕生寺 2016a『ねこでら―猫がご縁をつなぐ寺―』秀和システム

御誕生寺 2016b『ねこはなやまニャい―寺ねこDAYS―』オレンジページ

春藤献一 2018 占領下における社団法人日本動物愛護協会の成立 日本研究（国際日本文化研究センター），**57**，189-210.

春藤献一 2020「動物の保護及び管理に関する法律」における法案条文策定過程の検討：理念規定及び犬・猫引取義務規定を中心に 日本研究（国際日本文化研究センター），**61**，69-104.

久井情在 2018 広域市町村圏と「平成の大合併」の整合性とその地域差 地理科学，**73(1)**，21-33.

飯沢耕太郎 2019 日本の自然写真と岩合光昭 ユリイカ，**51(4)**，55-61.

猪又明日香・青木順子・木村有紀・昆美也子・紫竹美和子 2019 動物愛護管理センターと連携した犬および猫における人獣共通感染症病原体の実態調査 獣医疫学雑誌，**23(2)**，104-110.

石田卓夫 2001『猫のエイズ―FIV感染をめぐって―』集英社新書

板橋興宗 2013『猫のように生きる―からだで感じ

る生きかた指南』二玄社
伊藤直之・兼島 孝・佐伯英治・金井一享・近澤征史朗・堀泰智・星 史雄・樋口誠一 2010 日本全国の一般家庭で飼育されている犬および猫における消化管内寄生虫の調査 動物臨床医学，**19(2)**，41-49.
岩合光昭 2018a『カラー新版 猫を撮る』朝日新書
岩合光昭 2018b『ねことじいちゃん』クレヴィス
岩合光昭 2019 動物写真というフロンティア―あらゆる野生をめぐって― ユリイカ，**51(4)**，34-48.
旧約聖書 創世記 2010 関根正雄（訳）『旧約聖書 創世記』岩波文庫
諸井克英・古性摩里乃 2018『動物園の社会心理学―動物園が果たす役割と地方動物園が抱える問題―』晃洋書房
中村禎里 1987『日本動物民俗誌』海鳴社
杉本 彩 2020『動物たちの悲鳴が聞こえる―続・それでも命を買いますか―』ワニブックス
週刊文春編集部 2020 巨大仏，ネコと遊ぶ 週刊文春2020年10月8日号，140.
竹内道雄 2015『總持寺の歴史 増補新版』吉川弘文館
東京弁護士会公害・環境特別委員会（編）2020『動物愛護法入門第2版―人と動物の共生する社会の実現へ―』民事法研究会
植竹勝治 2014『ネコの愛護管理学入門―ネコとヒトの共生について科学的に考える―』緑書房

〔インターネット〕

青森県立三本木農業高等学校 2021 命の花プロジェクトとは［*http://www.sanbongi-ah.asn.ed.jp/250inochi/about.html*］
環境省 2021 ツシマヤマネコ緊急疫学調査の結果について（報道発表資料；1997年5月12日）［*http://www.env.go.jp/press/2-print.html*］
環境省自然環境局 2020 適切な管理―人と動物の共生を目指して―［*https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html*］
一般社団法人ペットフード協会 2020 2020年（令和2）全国犬猫飼育実態調査［*https://petfood.or.jp/data/chart2020/index.html*］

〔DVD〕

岩合光昭（監督）2019『ねことじいちゃん』DABA-5597 KADOKAWA

資料1　全国の犬・猫殺処分頭数の推移（環境省自然環境局，2020より）

		'04年度	'05年度	'06年度	'07年度	'08年度	'09年度	'10年度	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度	'16年度	'17年度	'18年度
〔犬〕	引き取り数	181, 167	163, 578	142, 110	129, 937	113, 488	93, 807	85, 166	77, 805	71, 643	60, 811	53, 173	46, 649	41, 175	38, 511	35, 535
	殺処分頭数	155, 870	138, 599	112, 690	98, 556	82, 464	64, 061	51, 964	43, 606	38, 447	28, 570	21, 593	15, 811	10, 424	8, 362	7, 687
〔猫〕	引き取り数	237, 246	228, 654	232, 050	206, 412	201, 619	177, 785	164, 308	143, 195	137, 745	115, 484	97, 922	90, 075	72, 624	62, 137	56, 404
	殺処分頭数	238, 929	226, 702	228, 373	200, 760	193, 748	165, 771	152, 729	131, 136	123, 400	99, 671	79, 745	67, 091	45, 574	34, 854	30, 757